

ヤチヤナギ *Myrica gale* L. var. *tomentosa* C.DC.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 18。愛知県の湧水湿地を特徴づける寒冷地系植物の中でも最も顕著なもので、著しく隔離的に分布する。県内では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

落葉性の低木。高さ 30~80cm になる。枝は黒褐色で、若枝には白色の軟毛がやや密に生える。葉はほとんど無柄、葉身は倒披針形~倒卵状長楕円形、長さ 2~5cm、幅 0.8~2cm、先端は円頭、基部はくさび形、先端部に少数の鋸歯があるほかは全縁、両面に軟毛があり、淡黄色の油点が散在する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬~5 月、雄花序は長さ 7~10mm、雌花序は長さ 5~8mm となるが、愛知県では雄株しか知られていない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部 (芹沢 51274, 1989-4-27)。1 カ所に小群落がある。13 豊川 (一宮町大木, 芹沢 51220, 1989-4-22) と 16 豊橋南部 (広見付近, 恒川敏雄 s.n., 1947-9-24, TMNH) にも生育していたが、前者は周囲の樹木の生長によって被陰され、後者は開発により生育していた湿地が破壊されて絶滅した。名古屋北部 (東山動植物園の近く) にも自生状に生育している場所があったが、これは移植されたものである。尾瀬でさえ隔離分布となる本種が温暖な東海地方の低地に生育しているのは、極めて注目すべきことである。

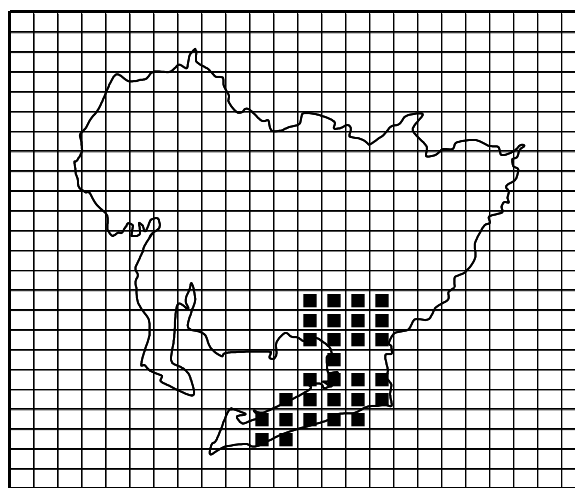
【国内の分布】

北海道、本州 (東北地方北部、尾瀬、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島北部、シベリア東部。種としては北半球の寒冷地に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

泥炭湿地の、多少陸化が進んだ部分に生育する。ただし、愛知県と三重県の自生地は、湧水湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

田原 (黒河湿地) では激減して数株しか残存していないが、現在は小康状態を保っている。湿地自体は県指定の天然記念物として保護されているが、富栄養化が進んでおり、将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

黒河湿地は水源のはっきりしない湿地で、水質の維持が難しい。少なくとも上流側での負荷行為は回避する必要がある。

【特記事項】

本種は北海道の湿地では普通に見られるため、国レベルのレッドリストではリスト外になってしまう。愛知県および三重県の本種は、地方版レッドデータブックの必要性を示す典型的な事例として、しばしば取り上げられている。東京大学総合研究博物館 (TI) には牧野富太郎氏が三河高師村で 1894 年 10 月 29 日に採集した標本が保管されており、「原頭湿漣ノ地ニ自生ス」と付記されている。県条例に基づく指定希少野生動物種になっている。

【関連文献】

保木本 II p.350, 平木本 I p.27, 平新版 2 p.100, SOS 旧版 p.44+図版 17, SOS 新版 p.98,100.